
くりぼっち

八方 美人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

くりぼっち

【Nコード】

N7333Z

【作者名】

八方 美人

【あらすじ】

くりぼっちのクリスマス

くりぼっちパーティ。

クラスのくりぼっちが集まるパーティ。

『くりぼっちも、いっぱい集まれば怖くない!』がコンセプト。

「深雪は来る?」

「うん。どうせ暇だし。」

「よし。これで10・10だね!」

高校二年12月。期末テストも終わり、クラスはクリスマスモードだ。

『リア充爆発しろ』と書かれた後ろの黒板が、非リア充の気持ちを語っている。

「じゃあ、12月24日。18時津田沼集合ね!」

寂しい気持ちで帰る。

ブーブー。

件名：なし

万里か…。

幼稚園からの幼馴染み。最近は交流があまりない。

「久しぶり！元気？
24日暇？」

「用事入ってるケド。何？」

「いやあ、勉強教えてもらおうと思って。じゃあおやすみ。」

万里が勉強とか…似合わない。（苦笑）

12月24日。

津田沼に向かう。暇だからブラブラしようと思って午前中に出発。

ジャスコやらモリシアをブラブラ。

恋人達が行き交う中、一人で買い物…。ま、たまには悪くないか、と開き直ってみる。

くりぼっちパーティ

「くりぼっちもいっぱい集まればこわくない！」

同じ境遇だからかみんなの会話ははずむ。

「深雪は？好きな人とかいないの？」

「好きな人ねえ…。」

「おい、佐倉。俺にお前の姉貴紹介してくれ。」

「姉ちゃん今彼氏いるから。」

他愛もない話をし、いつの間にか21時になってた。

「じゃ、また新学期に。」

学校の関係か、私だけ方向が違かった。

「深雪…:？」

「和馬！」

そこには元彼が立っていた。…彼女を連れて。

『クリスマスってとことんついてないのね。』

「彼女出来たんだ。」

「おう。お前はどつなんだ？」

「どつって…今くりぼつちパーティ行ってきたけど？」

「…そうか。」

「…じゃ、私帰るね。お幸せに。」

私は逃げるように去ってった。

近所の公園

『昔はよく万里と遊んだなあ。』

「深雪！」

「万里、こんな時間にどうしたの？」

「お前の親が心配してて探しに来たんだよ。」

「もう、お節介すぎるんだから。」

「…良かった。」

急に抱き締められる。

「…万里？」

「最近誘拐犯うつろついでるんだから気を付けろよな。」

「う…うん。あ、雪。」

「本当だ。ホワイトクリスマスだな。」

和馬の顔が浮かぶ。去年は…。

「なあ、深雪。」

「何？」

「好きだ。」

「え？」

「俺、お前のこと好きだ。」

「…。」

「俺、アイツにはかなわないってわかってるんだ。でも、お前にもうそんな顔させたくない。お前は俺が守る。だから…だから付き合ってくれ。」

今まで見たことない顔つきだった。いつもおどけて私を笑わせてくれた。辛いときも相談にのってくれた。

『一番わかってきてくれるのはこの人かもしれない。』

静かにうなづく。

これからの日々を楽しみにしながら…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7333z/>

くりぼっち

2011年12月24日11時55分発行